

# 幸せのハレの日写真

岡山県早島町・早島小3年 平松 聖さん

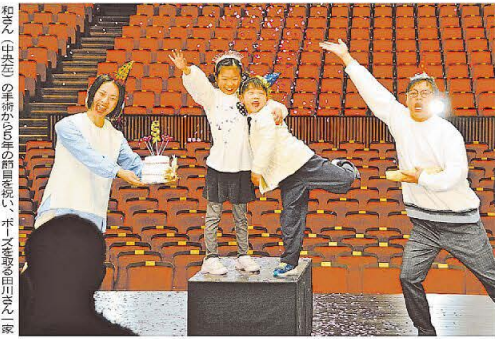
## 手術から5年「ハレの日」笑顔

長女が先天性心疾患 岡山・田川さん一家



写真家浅田さん「ハレノワ」で撮影会

「が声なき、紙吹雪が舞うステージで、親友4人が満面の笑みで叫んだ「イエーイ」



岡山県早島町早島小3年の田川和さん(9)は、心臓の左右の心室が入れ替わった先天性の疾患がある。生後13日で血管をつなぐ手術など治療を繰り返し、2歳のときに上半身、3歳で下半身の血管を改善する大手術を行った。

## 困難乗り越えた幸せ凝縮

「ハレの日」のワンシーンで、田川さん一家の思いが詰まった1枚1枚の写真が、お母さんにとっての「ハレの日」のワンシーンでした。

2025年3月6日付、山陽新聞

入学式や発表会、たん生日や運動会など、毎年たくさん行事や記念日があります。わたしにとつてのハレの日はどんな日なのかと考えながらこの記事を読みました。

わたしが考えるハレの日は、自分のたん生日。家族そろって写真をとって、お父さんとお母さんに「生んでくれてありがとう」を伝える大切な日です。いつもははずかしくて言えない言葉も、この日は顔を見て気持ちをしっかりと伝えます。

しかし、わたしのハレの日は家族にとつても同じだと思っていたけど、お母さんの答えは予想外のものでした。たん生日も発表会も大事な記念日だけど、今までできなかったことが初めてできた日も、ささいなことでも大笑いした日も、家族みんなで過ごせる毎日が家族にとつてハレの日だと言つのです。だから、お母さんはわたしや家族ががんば

っている姿をその人のハレの日として写真を部屋にかざっていると教えてくれました。かざられた写真を見ると、自転車に乗れるようになった日、バスケの試合で初めてシュートがきまった日など、大切な写真ばかりです。その写真を見ながら家族で思い出話をしていると、その時の気持ちを思い出して、またがんばろうという勇氣と元気がわいてきます。わたしは写真を見ながら、家族と楽しく話ができる時間が大好きです。

## 寸評

自転車に乗れるようになった日、スポーツで活躍した日…。家族の思い出が詰まった1枚1枚の写真が、お母さんにとっての「ハレの日」のワンシーンでした。文章からにじむ温かい雰囲気、心がほっこりする作品です。

わが家のハレの日写真は、家族のやさしさと愛がたくさんつまっています。楽しいことやうれしいことだけじゃなくて、なかなかうまくいかないことやくやしいことがあったとしても、ハレの日写真があるおかげで、目標に向かって努力していこうというふしぎなパワーが出てくるのです。わたしはこれからも家族みんなで笑顔いっぱい過ごせるように、いろんなことにチャレンジしながら心も体も大きく成長させていきたいです。そして、幸せあふれるハレの日写真がもっとあふれるように、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。